

# 道路交通の時間価値について の研究(1年目:中間報告)

研究代表者 加藤浩徳(東京大学)

共同研究者 上田孝行(故)

加藤一誠(日本大学)

谷下雅義(中央大学)

毛利雄一((財)計量経済研究所)

# 本研究のねらいと目標

## ねらい

- 我が国における、選好接近法に基づく時間価値推定の学術的蓄積に貢献すること
  - 選好接近法による時間価値の試算
  - 選好接近法による時間価値推計方法の確立

## 目標

- 「費用対効果分析マニュアル」を含めた、今後の事業評価手法の見直しにおいて、本研究の成果が活用されること

# 今年度の成果

1. 国内の交通時間価値に関するレビューならびに交通時間価値のメタ分析
  - 国内で発表された審査付き論文を網羅的にレビューし、交通時間価値のデータベースを作成。それをもとに、我が国で初めて、交通時間価値に関するメタ分析に成功。
2. 英米を中心とした諸外国の交通時間価値設定に関するレビュー
  - 英国、米国の交通時間価値のガイドラインをレビューするとともに、欧州の最近の動向を調査。我が国との類似点、相違点を整理。
3. 道路交通時間価値推定のためのデータ収集・スクリーニング
  - 道路交通センサス調査、幹線旅客純流動調査、東京圏パーソントリップ調査のデータを収集。来年度の分析にむけて必要なデータスクリーニングを実施。

# 来年度の研究計画

1. RPデータを用いた我が国の道路交通時間価値の推定
  - 交通経路や交通機関の選択行動モデルを用いて、我が国の道路交通時間価値を、選好接近法により推定。個人属性や社会経済環境による時間価値の分散に着目。
2. SPデータを用いた我が国の道路交通時間価値の推定方法の検討
  - 我が国の調査環境や交通行動特性の文脈を考慮した、交通時間価値推計のためのSP調査手法とその活用方法の検討。
3. 諸外国の交通時間価値設定の経緯および運用実態に関する調査
  - 諸外国の交通時間価値設定の経緯およびその運用実態を把握。交通時間価値設定における文脈やマニュアルの位置づけとその現場での運用を理解することの重要性を認識しつつ調査。